

2005 年度 環境情報学科 総合情報論 平常試験類似問題 担当：大城

● 60 分間 ● 33 問 × 3 点 + 1 = 100 点 ● 持ち込み一切不可

- 1/13 の本番の試験では、内容が変わっていたり、同じテーマの異なる内容が出たり、より深い問題が出たり、選択肢でなく内容を具体的に書かなければならなかったりします。場合によっては全く異なる問題が出る場合もあります。この類似問題はあくまで問題の雰囲気を示す物ですから、授業内容をしっかり復習して本番に臨んで下さい。(まる覚えでは点は取れないようにしておきます)

1. 計 7 問：関連項目：テキスト 1 「2005 年版基本情報技術者標準教科書」1-8-1, Web 資料

次の文において、空欄 A~G に入れる語として適切なものを、選択肢ア~シから選んで回答欄 A~G に書け。

プログラムは、端的に言えば「情報処理」を行うものである。つまり、プログラムの主な目的は、情報（すなわちデータ）を処理することである。そのため、データをメモリ上に格納する必要がある。複数のデータをメモリ上に格納する方法として、代表的なものとして、同じ種類のデータをメモリ上に隙間無く連続して並べる **A** と、メモリ上に散在するデータを、メモリアドレスによって「繋げて」管理する **B** がある。**A** や **B** のように、複数のデータをメモリ上に保持・管理するための構造を「データ構造」などと言う。データ構造に格納されている個々のデータを、「要素」などと言う。

データ構造には、それぞれその構造に起因する特徴がある。たとえば、**A** の場合、要素がすべて同じ大きさで、しかもメモリ上に隙間無く並べられているために、要素のメモリアドレスを簡単な計算で求めることができるため、要素へのアクセスは瞬時に実行でき、**A** に格納されている要素の総数には影響されない。このように、要素数に影響されずに各要素に瞬時にアクセスできるアクセス特性を「**C** アクセス」と呼ぶ。

しかし、要素を挿入・削除する場合には、**A** はあまり効率がよくない。要素を挿入する場合は、配列の大きさが足りなくなる可能性もあるし、要素を挿入する前に、挿入位置以降の全要素を後方へずらすようにコピーしなければならない。削除時にも、同様に削除される要素以降の全要素を前方へずらしコピーする必要がある。そのため、**A** は、要素の挿入・削除が **D** データを格納するのに適している。ところで、要素の **E** は、要素数も変化しないし、要素のずらしコピーはおこなない。そのため、**E** は **A** でも効率よく実行できるので、**A** を使った処理を効率よく行うための基本操作となる。一方、**B** は、特定の要素にアクセスするためには最初の要素から順々にメモリアドレスをたどっていかなくてはならず、これは **B** に格納されている要素数に比例した時間がかかる。このようなアクセス特性を、「**F** アクセス」と呼ぶ。しかし、**B** に要素を挿入・削除する場合には、数カ所のメモリアドレスを書き換えてやればよいだけなので、要素数に関係なく一定時間で実行することができる。つまり **B** は、要素の挿入・削除が **G** データを格納するのに適している。

ア グラフ イ 順次 ウ 頻繁に行われる エ 交換
オ リスト カ 一定 キ あまり行われない ク 遅延
ケ 配列 コ ランダム サ 許可無く行われる シ 移動
答え：A, B, C, D, E, F, G = ケ, オ, コ, キ, エ, イ, ウ

2. 計 7 問：関連項目：テキスト 1 「2005 年版基本情報技術者標準教科書」1-9-1, Web 資料

整列（ソート）について説明している次文において、空欄 H~N に入れる語として適切なものを、選択肢ア~ソから選んで回答欄 H~N に書け。(本番の試験では、授業で解説したソートの仕方をより具体的に問うかもしれませんが)

整列 (sorting) とは、データを一定の基準にしたがって並べ替えることである。値の小さい順にデータを並べ替える (たとえば、5,3,9 を 3,5,9 と並べ替える) ことを「**H** に整列する」と言う。逆に、値を大きい順にデータを並べ替える (たとえば、5,3,9 を 9,5,3 と並べ替える) ことを「**I** に整列する」と言う。

整列の方法にもいろいろな方法がある。以下の整列の手順の説明は、配列 a に格納された n 個の要素を小さい順に整列する場合を例にしているとする。「バブルソート」とも呼ばれる「隣接 **J** 法」は、隣り合う要素 a[i] と a[i+1] を比較し、前の要素 a[i] が次の要素 a[i+1] よりも大きかったら両者を **J** する、という操作を基本とする整列法である。i を 0 から (n-2) までこの操作を繰り返すと、a[n-1] に a[0] ~ a[n-1] の範囲の最大値が入ることになる。a[0] ~ a[n-2] の範囲で同じことを行えば、a[0] ~ a[n-2] の範囲の最大値が a[n-2] に格納される。そのまま範囲をせばめて同じ操作を繰り返せば、最後にはデータが整列されることになる。

「**K** 法」は、「セレクションソート」とも呼ばれ、「隣接 **J** 法」をすこしばかり改良したもので、最大値を見つける操作で **J** を使わないようにしたものである。「隣接 **J** 法」も「**K** 法」も効率の悪い整列法として知られ、実用では使用しない方がよいとされる。

効率の良い整列法としては、「**L** ソート」があげられる。「**L** ソート」は、配列中のデータの中から適当な基準要素を選んで、その基準要素の値よりも小さい値を持つ要素を基準要素の前に集め、基準要素の値以上の値を持つ要素を基準要素の後に集めるといった区間分割を基本操作とする。分割された区間に対して同じ操作を繰り返せば、最後には全要素が整列されることになる。「**L** ソート」と同等に高速な整列法としては、「**M** ソート」や「**N** ソート」が知られている。

ア 小順 イ 降順 ウ 選択 エ 大順 オ クイック
カ 消去 キ 昇順 ク 交換 ケ パージ コ ビット
サ マージ シ ヒープ ス 探索 セ セーフ ソ スピード
答え：H, I, J, K, L, M, N = キ, イ, ク, ウ, オ, サ (またはシ), シ (またはサ)

3. 計 5 問：関連項目：テキスト 1 「2005 年版基本情報技術者標準教科書」1-10, Web 資料

アルゴリズムのオーダについて説明している次文において、空欄 O~S に入れる語句を回答欄 O~S に書け。

アルゴリズムの効率を示す指標として、「オーダ」がある。たとえば、 N 個のデータを処理するアルゴリズムの時間が、 N に比例するなら、そのアルゴリズムのオーダは

$$O(N)$$

と表記する。処理対象の要素数が N のとき、「隣接 法」のオーダは , 「 法」のオーダは , 「 ソート」のオーダは , 「 ソート」のオーダは , 「 ソート」のオーダは であることが知られている。

答え：O, P, Q, R, S = $O(N^2)$, $O(N^2)$, $O(N\log N)$, $O(N\log N)$, $O(N\log N)$

4. 計 6 問：関連項目：テキスト 1 「2005 年版基本情報技術者標準教科書」1-8-2～1-8-3, Web 資料

特殊なデータ構造に関して説明している次文において、空欄 T～Y に入れる語句を選択肢 a～s から選んで回答欄 T～Y に書け。

「スタック」は、 (「後入れ先出し」という意味) という特性を持ったデータ構造である。スタックにデータを登録する操作を と言い、スタックからデータを取り出す操作を と言う。「待ち行列」は、 (「先入れ先出し」という意味) という特性を持ったデータ構造である。

木構造とは、ディレクトリファイル構造などのように、木の形をしたデータ構造である。木構造の「頂点」や「節」と呼ばれる部分には、親子関係があり、すべての頂点の親に当たる特殊な頂点を と呼ぶ。また、子のない頂点を と呼ぶ。

ア 枝 イ LILO ウ FIFO エ プット オ ポップ
カ 根 キ LIFO ク FFIO ケ プッシュ コ ピック
サ 葉 シ FILO ス LFIO セ ゲット ソ フック

答え：T, U, V, W, X, Y = キ, ケ, オ, ウ, カ, サ

5. 計 4 問：関連項目：テキスト 1 「2005 年版基本情報技術者標準教科書」3-9, Web 資料

次の説明の空欄 Z,a～c にあてはまる適切な語句を回答欄 Z,a～c に書け。

コンピュータの頭脳である CPU が解釈・実行するのは機械語と呼ばれる命令の集まりである。機械語をほぼ 1 対 1 で人間に分かりやすいように直したものを 言語と言う。それでも はまだまだ人間がプログラムを作るには不便なものであった。そこで、より人間が扱いやすいプログラム言語として作られたのが プログラミング言語である。C 言語も プログラミング言語のひとつである。人間が読めるようにテキスト形式で書かれたプログラムを と呼ぶ。C 言語などのプログラミング言語では、 を することによって機械語に変換する。

答え：Z,a,b,c = アセンブリ, 高級, ソースプログラム, コンパイル

6. 計 2 問：関連項目：テキスト 1 「2005 年版基本情報技術者標準教科書」2-7-3, テキスト 2 「オペレーティングシステム概説」2.4

テキスト 1 の P146 ページの例題で、LRU 方式の場合に起こるページアウトの回数を回答欄 d に、FIFO 方式の場合に起こるページアウトの回数を回答欄 e に書け。(本試験では、一切持ち込み禁止なので問題用紙にちゃんと例題のような図が載ります)

7. 計 2 問：関連項目：テキスト 1 「2004 年版基本情報技術者標準教科書」2-7-3, テキスト 2 「オペレーティングシステム概説」2.4

ある仮想記憶システムにおいて、マッピングテーブルが

<http://www.ohshiro.tuis.ac.jp/ohshiro/sougou/04/virtualmemory.gif>

の図ようになっていた。この図に示された仮想アドレスは、実際にはどこを指しているか。ブロックを表す記号 (アルファベット) を回答欄 f に、そのブロックの先頭から何バイト目かを回答欄 g に書け。

答え：f, g = e, 3598

学生番号

氏 名

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

a

b

c

d

e

f

g